

先哲に学ぶ人間学

いい機会・いい場所・いい人・いい書物に出逢うこと

令和二年十一月六日

税理士法人 中央総研 山川 晋

させられる仕事から、する仕事に変わるとき、苦しみは喜びに変わり、生き甲斐に眼を輝かせる。

東井 義雄

「非行少年」というのは、ほんとうにわかつてくれる人にめぐりあえないで迷っている「不幸少年」といえる。

東井 義雄

他人の欠点は誰にでも見える。しかし自分の欠点が見える人は少ない。自分の欠点が見えるだけでなく、それに挑み、改めていける人になるとさらに少ない。

東井 義雄

気が付いても、気がつかなくても、大いなる親の膝の上にいる。

東井 義雄

身はたとえ、武藏の野辺に朽ちぬとも、留め置かまじ大和魂。

吉田 松陰

身はたとえ、武藏の野辺に朽ちぬとも、留め置かまじ大和魂。

吉田 松陰

学は、人たる所以を学ぶなり。

吉田 松陰



読書尚友は、君子の事なり。

吉田 松陰



一日世に在れば、一日為すあり。

吉田 松陰

社会の凡俗と雑居する限りは、何をさておき先ず第一番に生計の錢なかるべからず。一身の衣食住を安くするも錢なり。父母妻子を養うも錢なり。家内團欒の快樂も錢なくしては叶わず、戸外朋友の交際も錢によつて始めて全うすべし。慈善を施すも錢なり。不義理を免がるるも錢なり。自由に思い、自由に言い、自由に行わんとする人士は錢の欲を恥ずるに足らず。

福沢 諭吉

人は子弟の教育費にすこぶる吝かなり。公にも、私にも、子弟の教育に錢を惜しむべからず。

福沢 諭吉

自分の智明にまかせて他人の言を冷淡に聞き流すのみならず、ややもすれば益無き事に、他の短所をあげ寸鉄殺人の毒言をはいて、あたかも無益の殺生する如きは交際上的一大欠点として数えざるをえず。水清ければ魚なし。人智明なれば友なし。朋友の容るるは度量広くしていささか漠然たるを要す。

福沢 諭吉

思想の深遠なるは哲学者のごとく、心術の高尚正直なるは元禄武士のごとくして、これに加うるに小俗吏の才をもつてし、これに加うるに土百姓の身体をもつてして、はじめて実業社会の大人たるべし。

福沢 諭吉

正義は往々自己に不利に見えるところが少くない。

しかし結局、正義が眞の利益である。自ら信じる正義の為に、不利はおろか、時には死をも辞せぬことが、人間の貴い道徳であり、権威である。

この信念と氣節とが、一切の困惑を救つて、国民の新運命を開く鍵である。この信念と氣節のある人々が国民の指導者に輩出するほか、日本を救う道はない。

何ものにも真剣になれず、したがつて、何事にも己を忘れることができない。満足することができない。楽しむことができない。したがつて、常に不平を抱き、不満を持つて何か陰口を叩いたり、やけのようなことを言って、その日その日をいかにも雑然、漫然と暮らすということは、人間として一種の自殺行為です。社会にとつても非常に有害です。毒であります。

義とは実践の法則であり、理とはその理由である。君子のいう本当の功名手柄は、人間としていかにあるべきかの道徳から出る。

つまり本当の利益というものは、義理にかなうものでなければならぬということである。

ところが世の中の利害というものは大抵義理に反して打算にはしる。これが問題である。

活きた時間というのは朝だけだ。言い換えれば本当の朝を持たなければ一日ダメだ。昔から優れた人で早起きできない人はいない。

『出逢いの人間学』

致知出版社

藤尾秀昭氏

*成功する人と不成功に終わる人の違い。

成功する人は、与えられた環境・縁・仕事に、徹底して価値を見出し、その価値を信じ抜いた人である。

不成功に終わる人は、与えられた環境・縁・仕事に不平や不満を言い、その価値を見出せない人である。

*ナンバー1とナンバー2の関係。

あらゆる組織体は、ナンバー1とナンバー2の呼吸がぴったり合っていること。会社においても、もちろん、家庭においても同じである。血脉・血縁だけでなく、法脈で繋がること。

*尊敬する人を持つ。

世界二十カ国の中学生に「学校の先生を尊敬しているか」のアンケートに、アメリカ・韓国・中国は八十%台。中位でも七十%台。日本は二十一%というダントツの最下位。

*土手の桜ではなく、深山の桜になること。

いい花を咲かせたら、必ずそこに人が来て、道ができる。

「Y市の市長選を応援して」

令和2年10月に、Y市で市長選がありました。成り行き上、現市長に対する新人候補を推すことになりました。

事の始まりは、7年前に、私がY市の代表監査委員になったことです。教育・福祉・建設・水道・総務等を、毎月監査し、現場も視察しました。財政の健全化と、市民福祉の両立という難しい問題にも直面しました。

人口減少・税収の頭打ち・官から民への時代の流れ、市民の要求の多様化等々、安岡正篤師が説く、「長期的・総合的・本質的に考える必要」がありました。

決定的な亀裂は、民間病院を市民病院化するという、どう考えても時代に逆行する提案を、y市長がしてきたことです。市議会は何度も紛糾し否決されても、その都度、y市長は、性懲りもなく再提案してきます。

そうしている間に市議選があり、当選したある新人議員は議会の中でy市長に侮蔑され、ある議員は籠絡され、ついにy市長派が多数を占めるようになりました。

危機感を持った私は、平成30年12月に「公金支出差止」の住民訴訟に訴えました。裁判で勝つ可能性は低くとも、後の世の為にも、正義を貫くことの大切さを示したかったのです。訴訟費用も、我々と、市側は、なんと、約10倍の開きがあることも解ってきました。市民の血税を何と考えているのか、怒りさえ覚えました。

そして、いよいよ令和2年10月、市長選が始まりました。我々は、人物本位で、民間出身のK氏を推しました。私が後援会の会長という重責を担いました。

この市長選に負ければ、Y市の財政が破綻するかも知れません。

しかも、建築場所はY市駅前のロータリーの一等地です。

総額120億円で179床。どうあがいても黒字になる訳がありません。y市長は詭弁を弄して（一般会計から毎年莫大な補填をして）黒字で“法律上問題ない”と、市民を説得しています。元来、政治は「法に叶い、理に叶い、情に叶う」ことを条件とするものです。法律上問題ないでは、合格点は与えられないのです。

正義か不正義か！善か悪か！美か醜か！の戦いだと、心を奮い立たせて戦いに臨みました。現職は強い！知名度が違います。12年間、あらゆる機会に名前を売っているのですから。

また、戦いは、味方も作りますが、同時に敵も作ります。心ある人は、山川さん、あまり表に出ない方がいいよと、諭して下さいました。万一、負けた時は、大変な立場に立つかなります。

私心は無いか？動機は善か？何度も自問自答しても、一点の曇りもありません。

一日一日、手ごたえは出でてきます。協力者も増えてきます。そして、ついに現職に勝つことが出来ました。

事務所では、直接に間接に、社員のみんなが快く協力してくれました。

正義とは何か、勇氣とは何か、近くで見ていてくれた社員への勉強になったことが嬉しいことでした。みんな、ありがとう！合掌



今月のポイント

正義には敏感に、

利には鈍感に。